



2024.9.23

AtomOS 11.10.01 ファームウェアリリースノート

Ninja Ultra

インストール方法

ファームウェアのアップデートを開始する前に、Ninja Ultra を主電源に接続することをお勧めします。

- フォーマット済みの SSD をドッキングステーションに挿入してください。
- ダウンロードしたファイルを解凍し、ATOMNJU.FW ファイルを SSD のルートにコピーしてください。
- SSD をドッキングステーションから抜いてください。(OS のガイドラインに従います)
- Ninja Ultra に SSD を挿し込んでください。
- Atomos Connect をお持ちの場合は、この FW リリースの一部としてモジュールのファームウェアも更新する必要があるため、電源を入れる前に Atomos Connect がデバイスに接続されていることを確認してください。
- Ninja Ultra の電源を入れると、ファームウェアのアップデートが自動的に開始されます。
注意: Ninja Ultra の電源が入っている場合、新しいファームウェアを含むドライブを挿入すると、ファームウェアのアップデートを実行するよう促されます。
- アップデートが完了すると、Ninja Ultra の電源が切れます。
- Ninja Ultra の電源を入れ直すと、デバイスは自動的に Atomos Connect アクセサリーのアップデートを開始します。
- ファームウェアのアップデートが正常に完了したかどうかを確認するには、メインメニューに移動し、情報タブにスクロールします。
注意: Ninja Ultra にファームウェア 11.10.01 が正常にインストールされると、Atomos Connect のファームウェアを更新するために本体が再起動することがあります。ファームウェアのインストールを中断しないでください。

不具合修正と改善

AtomOS 11.10.01 は、先週の 11.10.00 アップデートのリリース後に見つかった、Camera to Cloud 実装に関するいくつかの重大な問題を解決します。

- C2C アップロード処理(Frame.io に直接、または Atomos Cloud Studio 経由)の不安定性に対処しました。ファイルのバックログがキューに溜まっている場合、アップロードプロセスがクラッシュし、ファイルがアップロードされないだけでなく、その後の録画に支障をきたす可能性があります。
- C2C ファイルが不正なタイムスタンプでアップロードされる問題を解決しました。これは、デバイスがインターネットに接続されていない状態で録画を開始し、同じテイクの録画中に接続が確立された場合に発生する可能性があります。
- メイン録画コーデックとして H.265 を選択した状態で 4Kp60 信号を録画すると、断続的にフレームドロップが発生する問題に対処しました。これにより、録画ボタンが一時的にグレーアウトすることもありました。

今後のリリースで解決される既知の制限事項

- 録画モードと再生モードを切り替えた際、Wi-Fi およびイーサネット接続の再確立に最大 10 秒かかる場合があります。システムが自動的にネットワークに再接続するまで時間をおいてください。
- B フレームを有効にして録画された H.265 クリップを再生しようとすると、一時停止と再生のコントロールができないことがあります。
- NDI RX モードのデバイスで A/V のずれが発生することがあります。
- SRT Listener モードで Wowza を使用してストリームを開始する場合、SRT 出力を検出するのに最大 2 分かかることがあります。
- 再起動後、デバイスがインターネットに接続されるのを待ってから C2C の録画を開始してください(最大 10 秒かかる場合があります)。接続が確立するのを待たないと、C2C の保存先フォルダに重複してアップロードされてしまう可能性があります。
- RAW+プロキシ C2C モードで、Sony FX9 からの 2Kp59.94 RAW フィードが供給されている場合、録画は無効になります。
- C2C モードに切り替えると、モニター画像が一瞬マゼンタがかかった色で表示されることがありますが、すぐに元のモニター色に戻ります。
- RemoteView モードでは、フレームレートを途中で切り替えると UI がフリーズすることがあります。RemoteView の使用中は、フレームレートの変更を行わないことをお勧めします。
- 録画フォーマットとして H.265 を選択した状態で DCI 4K 解像度に切り替えると、RemoteView が期待通りに動作しない場合があります。RemoteView モードで記録形式として H.265 を選択する場合は、16:9 に固定することをお勧めします。
- 720p を HDMI/SDI 経由で他の機器に出力する場合、受信側で画像のアーチファクトが発生する可能性があります。
- 720p50 および 720p59.94 で記録された H.265 クリップを再生すると、ズームおよび波形モニター機能が無効になります。
- WFM モニターツールは、8kp30 および 6Kp60 RAW 入力では使用できません。
- 記録フォーマットに H.265 を選択した場合、Network Record Control は使用できません。
- Live Streaming は、標準 YCC 422 ビデオ入力を使用し、記録コーデックが ProRes または DNx に設定されている場合のみ使用できます。ProRes RAW または H.265 が記録コーデックとして選択されている場合、ストリーミングは利用できません。
- YCC SDI 入力で ProRes RAW 記録モードを起動した場合、モニタリング画像が正しくない場合があります。ProRes RAW モードで NinjaUltra に RAW 信号を出力しながらのモニタリングとレコーディングは期待通りに動作します。
- HDMI Compatibility モードを選択したまま異なるカメラに切り替える場合、新しいカメラを接続する前に本体を再起動してください。
- 1 つの Atomos Connect に 2 つの AtomRemote アプリを接続すると、パフォーマンスが低下する場合があります。1 つのデバイスにつき、1 つの AtomRemote アプリのみをペアリングしてください。
- デュアルレコードを有効にして DCI アスペクト比で撮影すると、プロキシファイルは 16:9 のアスペクト比にトリミングされます。

